

設問1

国際スポーツ理学療法連盟のSports Performance for ALLプロジェクトが定めるスポーツ理学療法士に求められる11のCore Competencies(中核的能力)について、誤っているものはどれか、一つ選べ。

A1	障害予防
A2	急性期介入
A3	生活支援
A4	安全管理
A5	パフォーマンス向上

正解 A3

国際スポーツ理学療法連盟のSPAプロジェクトが定めるスポーツ理学療法士に求められる11のCore Competencies(中核的能力)は、障害予防、急性期介入、リハビリテーション、パフォーマンス向上、安全管理、生涯学習、専門性と管理、研究への関与、最良の実践の普及、実践の進化、フェアプレーとアンチドーピングの実践として提示している。

設問2

パラスポーツを科学する理学療法士の役割は大きく3つある。1つ目は「クラス分け」、2つ目は「コンディショニング」であるが、3つ目はどれか、1つ選べ。

A1	治療
A2	栄養指導
A3	心理サポート
A4	用具の最適化
A5	アンチ・ドーピング指導

正解 A4

医療と競技の橋渡しを担う理学療法士の役割として、公平性を担保する「クラス分け」、障害特性に応じた「コンディショニングと傷害予防」、バイオメカニクスに基づく「用具の最適化」という3つの側面から科学的支援を実践している。

設問3

初級パラスポーツ指導員養成カリキュラムにおいて、理学療法士が直面する「医学的モデル」から「社会モデル」へのパラダイムシフトとして、最も適切な説明はどれか、1つ選べ。

A1	スポーツを通じた機能訓練を最優先し、リハビリテーションの延長として指導を行うこと
A2	障がいを個人の問題ではなく、社会環境との相互作用による制約と捉え、参加を促進すること
A3	障がいを治癒すべき疾患として捉え、機能回復のみを目的とするアプローチへの転換
A4	医学的エビデンスを排除し、ボランティア精神中心でスポーツ指導にあたること
A5	重度障がい者に対しては、競技性よりもリラクゼーションを主眼に置くこと

正解 A2

社会モデルでは、障壁を環境側に求め、個人の権利や社会参加を重視する視点が不可欠である。したがって、本人の主体的な参加や楽しみを重視する。

設問4

国際生活機能分類(ICF)を構成する要素として、誤っているものはどれか、1つ選べ。

A1	環境因子
A2	個人因子
A3	社会的不利
A4	健康状態
A5	心身機能

正解 A3

「社会的不利」は、国際障害分類(ICIDH)に含まれる要素である。